

第 1074 回教育委員会 会議録

令和元年 9 月 6 日

14:00～14:30

①開 会

< 菅間 教育長 >

ただいまから、第 1074 回教育委員会を開会いたします。

< 菅間 教育長 >

議事等に先立ち、申し上げます。

さきほど、2 名の傍聴の申し出があり、これを許可しましたので、御了承願います。

②会議録署名委員の指名

< 菅間 教育長 >

会議録署名委員に、涌井委員と山川委員を指名いたします。

③会期の決定

< 菅間 教育長 >

会期は、本日 1 日としていかがですか。

< 各 委 員 >

異議なし。

< 菅間 教育長 >

御異議なしと認め、会期は本日 1 日に決定いたします。

< 菅間 教育長 >

これより議事に入ります。

④議 事

< 菅間 教育長 >

議第 1 号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」、総務課長より説明願います。

< 総 務 課 長 >

議第 1 号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」でございます。報告書の本体につきましては、先月の定例教育委員会の終了後に御説明を申し上げたところですが、当該案を 8 月 26 日に開催しました山形県教育懇話会でお示しをしまして、各委員から御意見をいただいたところでございます。

まず、参考資料 1 を御覧いただきたいと思えます。主なものを紹介させていただきますと、主な意見の（2）の家庭教育の推進につきましては、保護者に対する教育、特に保護者同士が相談できる機会を充実してほしいこと、また特に未達成となっている項目の指標の向上につきましても、学校だけでなく家庭や地域の関わりが大切であり、さらなる働きかけが必要との御意見をいただきました。

また、（3）の確かな学力の育成につきましては、根幹である学力の育成関係に目標の未達成が多いのは大きな問題であり、今後もしっかりと施策を評価・検証し、後期計画で重点的に対策を盛り込む必要があるとの御意見をいただきました。

（4）の特別支援教育の充実に関連しまして、目標達成したこと自体は

評価できるが、その数字だけにとらわれずに、個別指導計画の有効性の検証・改善等を行い、内容の充実にさらに取り組んでいただきたいとの御意見がありました。いただいた御意見の多くは現行の施策の必要性について改めて御意見をいただいたもの、教育現場における取組みを実際に御覧になっての評価、今後の施策を進める上での望む視点等ございました。当日は庁内の全課長が出席しておりまして、いただいた御意見をしっかり受け止めまして、現在又は今後の施策について十分な議論を行って参りたいと考えております。

また、全体の指標につきましても、御意見をいただいております、これを特に今後の6教振の基本計画の指標についても活かして参りたいと考えております。

以上、様々な御意見をいただいた結果、報告書自体には特に修正は要しないとの教育懇話会の御意見をいただいております、本日お渡ししている報告書を最終報告案として御提案させていただくものでございます。よろしくお願いたします。

次に、参考資料2を御覧ください。前回、森岡委員から指標について様々な要素を加味して、調べてみる必要があるのではないかという御意見をいただきまして、特に学校以外の社会的要因の影響が大きいと考えられる指標を中心に、指標の変化に関連すると思われる要素を関係要素として掲載したものでございます。一部表の中に黒丸として表示している現在において把握できていないものもございしますが、幅広く掲載させていただきます。

例示として何点か御説明させていただきますと、2ページの不登校児童生徒の出現率につきましては、表にもありますが、全国的に増加傾向にあります。また、二つ目の不登校の要因を見ますと、小学校・中学校ともに家庭に係る状況というのが要因のトップになっております。このような中で本県の状況の一端を見ますと、一人親世帯、ジニ係数及び貧困率については、全国平均を上回っております。これが要因であるとは一括りにはできませんが、教育現場におきましても福祉や子育て支援との連携が重要と認識しております。また、教育懇話会の中では、保護者が必ずしも学校に戻すことをゴールと捉えていないという御意見もいただいております、調査方法は難しいところですが、このような点にも注視していきたいと考えております。

6ページを御覧ください。森岡委員からは特に㊸の地域の行事に参加している児童生徒の割合について御意見をいただきました。全国平均と比較をしますと、ほぼ同傾向を示しております、中学生は伸びているのですが、小学生はほぼ横ばい傾向にあります。県の調査をしたものから拾いますと小学生の休日の過ごし方につきましては、自宅を除けば学校以外のクラブ活動、友人と遊ぶ、買い物は上位を占めております。丸の三つ目の子どもたちの地域の行事に対する感じ方としまして、質問自体はどんな時に楽しいと感じたり安心したりするかという調査項目ですが、その中には児童生徒の4割強が地域の行事に参加しているときのことを肯定的に捉えております、これは学校にいるときや習い事など

の学校以外の活動に参加しているときとほぼ同様の割合を示しており、一定の肯定的な評価をしているため、引き続き参加促進に向けた整備に取り組んで参りたいと考えております。また、このような分析等についても、さらに進めまして今後の施策展開に活かすとともに、現在検討しております後期計画の指標等の検討についても活かしていきたいと考えております。説明は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

<菅間教育長> 御意見、御質問等ございますか。

<山川委員> 教育懇話会の意見の中にもありますけれども、学力育成にかかる指標の未達成が多いということですが、様々な要因があるとは思いますが、しかし、これは根幹に関わるころだと思ひます。他のものに比べると分かりやすく結果が出てくるとそれによって対策も立てやすい分野だと思ひます。これは非常に意識して見なければいけないころなのかなという印象を持っています。

<片桐委員> この資料は非常に見やすいと思ひます。学力というのは、家庭生活や地域との密着が非常に関係していると思ひますので、子育てや福祉等の様々な部局と連携していくことが重要であると思ひます。何年前かに新庄地区の小学校を視察したときに、廊下に夏休みの思い出というのが多く貼られていましたが、それを見ると地域のお祭りに参加して楽しかったということや子どもの祖父母が関わっていたものが非常に多くありました。子どもたちが地域に守られ、郷土というものを身近に感じながら、生活していくことは良いことだなと実感しましたし、是非このようなものを大事にしていきたいと感じました。

<武田委員> 学力・学習状況調査というのは、子どもたちに対して行う調査ですか。

<総務課長> 学力・学習状況調査というのは、子どもに対して行うものと学校自体に対して行うものがございます。

<武田委員> 不登校のような家庭に係る状況というのは学校の判断で回答しているものですか。

<総務課長> 学校の判断で回答しています。

<武田委員> 参考資料2の2ページの「保護者の「学校に戻すこと」をゴールと捉えない考え方の増加」というのは、昔のように学校に行くことを嫌がる子どもを無理やり行かせないという考え方なのですか。

<総務課長> その部分については、教育懇話会の中で委員より御意見をいただいたもので、現在はフリースクールというものもございます。そのようなものも含めて、学校が解決手段ではなくて、その前段の居場所づくりと

いうものも含めて様々考えていかななくてはいけないのではないかという御意見と理解しております。

<武田委員> 実態として保護者が子どもを学校に戻すことについて、このように考えているというのは数字としては特に調査を行っていませんか。

<総務課長> 数字の把握方法が難しいということもあり、調査項目に含めておりません。一律に聞く方法がいいのかということも含めて、様々な場で教員の方に家庭状況がどのような傾向にあるのかについてお聞きをしなければいけないと思っております。

<菅間教育長> 不登校のようなことに精通している方の御意見が逆に子どもを苦しめることもありますので、現在は学校の方針も少し変わってきております。

<武田委員> 子育てに悩んでいる保護者が非常に多いというのが実感としてあります。どのように接していいのか分からない、子どものやる気がない、土日をどのように過ごしていいのか分からないとおっしゃっている方が非常に多いです。ただ、これは感覚としてのものでしかないのですが、このような状況をきちんと把握する必要があるのかなと思います。

<総務課長> 把握の方法については、少し工夫をしていきたいと思っております。

<片桐委員> 質問ですが、不登校の生徒ということで資料があるのですが、例えば連休明けに行かなくなったとか、夏休み明けに行かなくなったとかという細かい所まではないわけですか。

<総務課長> そのように全体をまとめたものはございません。

<片桐委員> どのような傾向にあるかというのは分かるのですか。

<日高次長> 学校では把握しているのですが、この統計資料では全体として一月以上休んでいる子どもを対象に集計しております。

<菅間教育長> この表を御覧いただくと、小学校の不登校児童生徒の出現率は0.4%で、中学校は2.69%ということで、一桁違っております。小学校から中学校のところというのは、どの都道府県でも大きな変化となっております。あくまで推測ですが、新しく人間関係を構築することが要因ではないかと考えられます。

<菅間教育長> ほかになければ、原案のとおり可決してよろしいですか。

<各委員> 異議なし。

<菅間教育長> 御異議なしと認め、議第1号は原案のとおり可決いたします。

<菅間教育長> 次の議第2号は人事に関する案件であり、また、議第3号は議会提案前の案件であることから、これより秘密会としていかがですか。

<各 委 員> 異議なし。

<菅間教育長> 御異議なしと認め、これより秘密会といたします。

《 議第2号及び議第3号は秘密会にて審議 》

⑤閉 会

<菅間教育長> これで、第1074回教育委員会を閉会いたします。